

タッセルって、カーテンを留めるアレ？  
その程度の知識だった私が、一日でタッセルの認識が変わってしまいました。  
それもそのはず、M-PASSEMENTERIE(エム パスメントリー)の  
江本美和さんの手から生み出されるタッセルは、  
お部屋の雰囲気を一瞬で華やかにする魔法使いみたいなんです。  
さっそく、タッセルの魅力をご紹介します！



### イギリスの教室はティータイムばかり!?

ずっと専業主婦だった私の運命を変えたのは、2000年でした。主人の赴任先のイギリスで、子どもたちが就学している時間、私は近くの図書館で開催されていたタッセルメイキングの教室に通うことに。そこで出会ったアンナ先生は、イギリスではお城や遺産など文化財の修理を手掛けるアーティストでもあり、タッセルに使用する材料は、スウェーデンやドイツから取り寄せるこだわりようだったんです。私ももともと手芸は好きでしたけど、アンナ先生の作品を見た瞬間、タッセルの魅力に取り憑かれてしまいました。でもイギリスはティータイムが多くて、すぐに休憩時間があるでしょう？早く習いたいの～って、いつも思っていましたよ(笑)。

# タッセルは永遠の脇役、 そこが愛おしくて。



### NHKのおしゃれ工房が転機に!

帰国して2005年に自分でタッセル教室を始めたのですが、当時はまだタッセルが知られていなくて、無理やり友だちに習ってもらってました(笑)。転機を迎えたのは、NHKのおしゃれ工房の出演です。「ボンド」は商品名だから言っちゃダメ」「説明する時は、こことかそことか言っちゃダメ」「材料は日本全国どこでも手に入らないとダメ」など規制が多くて大変でしたが、タッセルの魅力を全国に伝えることができたことが何よりうれしかったです。おかげで今は、かご作りの先生やカルトナージュ(厚紙の箱に布を貼るフランスの伝統的手芸)の先生なども教室に習いにいられています。タッセルは、カーテンだけでなくさまざまな装飾品として用いられるので、作る喜びがますます広がっています。



### 美和オリジナルの ブランド化をめざして

タッセルって、どんなに時間をかけて作っても、何かを装飾する脇役なんですよ。ただ、そこに作り手の個性が凝縮されているところにたまらなく愛おしさを感じるんです。基本を覚えれば作り方はそれほど難しくないので、常に自分の技術を向上させるためにも実は私、いまだにアンナ先生のところに定期的に新しい技術を習いに行っています。そして私の教室では、作り手の個性が幅広く表現できるよう“基本のひも作り”からしっかりマスターできることが最大の長です。これからの目標は、自分の作品をもっともっと増やしていくことです。そして、美和オリジナルをブランド化できたら最高にHappyです!



Profile  
M-PASSEMENTERIE/主宰 江本 美和  
福岡県北九州市出身。2000年、イギリスで出会ったアンナ先生のタッセル教室が運命の出会いとなり、帰国後2005年に自宅レッスンを開始。西日本文化センターや岩田屋文化センターの講師を経て、2010年NHKおしゃれ工房に出演。全国にファンを持ち、現在は福岡だけでなく東京都銀座、兵庫県宝塚市でも定期的に教室を開講。  
<http://www.m-tassel.com>

